

テーマ：自治体環境政策として里地・里山保全を学ぶために

関連の深いコース：ローカル・サステナビリティコース、人間文化コース

1. このテーマを学ぶために

自治体の環境政策において里地・里山保全というテーマがクローズ・アップされています。都市では残された貴重な緑を保全し、農村では伝統的な村落景観を継承していくことなどが主な政策目的といえるでしょう。このテーマを学ぶにあたって、まず「地方自治論」、「自治体環境政策論ⅠⅡ」による地方自治の基礎知識と自治体の環境政策に対する理解が不可欠です。また里地・里山保全は、都市であれ農村であれ、地域環境の重要な構成要素として、広い意味でのまちづくりの中で考えていかなければなりません。そこで「地域形成論」、「地域経済論」、「都市環境論ⅠⅡ」、「自然環境政策論ⅠⅡ」、「地域コモンズ論」、「環境教育論」などで現代のまちづくりに関する基礎知識や考え方を学ぶ必要があります。

自治体の環境政策としての進め方についてはいくつかのアプローチがあります。たとえば法律や条例などの法的手段を理解するためには、「行政法の基礎」や「環境法ⅠⅢ」の知識が必要になるでしょう。さらに都市の里地・里山の多くは、開発のために売買の対象となる私有地です。したがって法律に関する科目では、「憲法の基礎」、「民事法ⅠⅡ」も基礎知識として身につけてほしいと思います。なお環境政策としては法的手段だけではなく経済的手段というアプローチもあります。あるいは里地・里山を守ることにについてはその価値を経済的に測定することが必要な場合があります。この点では「環境経済論ⅠⅡ」が示唆を与えてくれると思います。

誰が里地・里山を守るのかということについて、自治体が政策的に保全していくことはもちろんですが、地域住民や環境NPOの存在も重要です。こうした環境政策における地域の力については、「NPO・ボランティア論」、「市民社会と政治」、「環境社会論ⅠⅡⅢ」の履修で理解が深まると思います。

ところで、里地・里山保全が自治体の重要な政策課題になったのは、それが失われつつあるからです。なぜそうした事態に至ったのかといえば、戦後の高度経済成長の過程で地域社会が変貌し、里山の価値に対する認識が低下してきたからです。そうした社会の変化については、「現代社会論ⅠⅡⅢ」で理解を深めてください。また里地・里山を保全していくためには、それがかつて地域社会でどのような意味をもっていたのかということをも再認識する必要があります。里地・里山の歴史的・文化的価値を再認識するためのヒントは、「日本環境史論ⅠⅡ」や「環境表象論ⅠⅡ」にあると思いますし、「環境哲学基礎論」、「環境倫理学」は保全ということに関する思想的そして根元的な問いを考えるにあたって有益でしょう。

最後に、里地・里山は、地域の水環境ともつながり、また生物多様性に富んだエリアであるといわれています。したがってこの政策は、地域の自然保護であると同時に間接的には地球環境の保全にもつながっていきます。これらのことに関しては、「サイエンスカフェⅢ」、「自然環境論ⅠⅡⅢ」、「自然環境政策論ⅠⅡ」、「環境人類学ⅠⅡ」などで基礎知識を学んでください。

2. テーマに関連した推奨科目

地方自治論、自治体環境政策論ⅠⅡ、憲法の基礎、行政法の基礎、環境法ⅠⅢ、民事法ⅠⅡ、環境経済論ⅠⅡ、NPO・ボランティア論、市民社会と政治、環境社会論ⅠⅡⅢ、地域形成論、地域経済論、都市環境論ⅠⅡ、地域コモンズ論、環境教育論、現代社会論ⅠⅡⅢ、日本環境史論ⅠⅡ、環境表象論ⅠⅡ、環境哲学基礎論、環境倫理学、サイエンスカフェⅢ、自然環境論ⅠⅡⅢ、自然環境政策論ⅠⅡ、環境人類学ⅠⅡ